

令和元年度第2回公立大学法人宮城大学評価委員会 会議録

日 時： 令和元年8月20日（火）午後2時30分から午後3時30分まで

場 所： 宮城県庁 行政庁舎 9階 第一会議室

出席者： 別紙のとおり

会議の内容

【1 開会】

（司会）

それでは、ただいまから、令和元年度第2回公立大学法人宮城大学評価委員会を開催いたします。

【会議の成立】

（司会）

本日は、吉沢委員から所用により欠席する旨の御連絡をいただいております。委員6名中5名に御出席いただいておりますので、公立大学法人宮城大学評価委員会条例第5条第2項に規定する、委員の半数以上という定足数の要件を満たしており、会議が成立しておりますことを御報告いたします。

【2 挨拶】

（司会）

それでは、開会にあたりまして、宮城県総務部長の江口から御挨拶を申し上げます。

（総務部 江口部長）

本日、今年度2回目の宮城大学評価委員会に御出席をいただきましてありがとうございます。

また前回は大変暑い中、現場視察も含めまして、先生方には委員会、それから現場視察と御出席いただきました。その後も大変短い期間にもかかわらず、評価書について様々な御意見をいただいたことにつきまして、改めて感謝を申し上げます。

本日につきましては、皆様方からいただきました意見を踏まえた評価案をもとに審議をいただきまして、平成30年度の業務実績に関する評価のおまとめをいただきます。本日もぜひ忌憚のない御意見をいただければと思ってございます。よろしくお願い申し上げます。

【議事】

（司会）

それでは、議事に入ります。

議事進行は、公立大学法人宮城大学評価委員会条例第5条第1項の規定により委員長が会議の議長となることとされておりますので、中島委員長にお願いいたします。

(中島委員長)

それでは、よろしくお願いします。

【会議の公開について】

(中島委員長)

この会議は公開ということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

【3 審議】

(中島委員長)

それでは、次第に沿って審議を進めたいと思います。

まず、本日の配付資料について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(資料1～3に基づき事務局から説明)

(中島委員長)

ありがとうございました。

【平成30年度業務実績評価について】

(中島委員長)

それでは、審議事項について始めたいと思います。

事務局で資料1にまとめてあります皆様の御意見を確認の上、議論をいただき、必要に応じて案の修正をしたいと思います。資料1、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(資料1に基づき事務局から説明)

(中島委員長)

ありがとうございました。資料1の意見が分かれているところに関しましては、後ほど議論したいと思います。

続きまして、事前にいただきました質問について説明をお願いします。

(事務局)

(資料3に基づき事務局、法人から説明)

(中島委員長)

ありがとうございました。追加質問はありますか。よろしいでしょうか。

では、資料1の評価結果、特に評価が分かれたところに関して議論をしていきたいと思います。

【評価が分かれている項目等について】

(中島委員長)

では事務局から、意見の分かれているところについて個別に説明をお願いします。

(事務局)

事務局から御説明させていただきます。

項目別評価のうち、3人と3人の半数に評価が分かれる項目はございませんでしたが、2人と4人に評価が分かれている項目が4項目ありましたので、御説明させていただきます。評価が5人と1人に分かれている項目につきましては、後ほど項目を限らず、皆様から自由に御意見をいただく時間がございますので、その際あわせて御審議いただければと思います。

評価が分かれた項目の1つ目として、資料1の2ページと、資料2の1ページをあわせて御覧ください。

項目番号1「イ 学士課程」について、B評価が4人、C評価が2人となっており、評定案としては、B評価と記載しております。前回、機械的な評価としてお示した仮評価ですとC評価でしたので、評価が1段階上がっています。法人の業務実績報告書によりますと、外国人留学生の受入実績について、自己評価をⅡとしているものの、その他の学士課程全体に係る入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置については、自己評価はⅢであり、年度計画を予定どおり実施しているとされています。昨年度は、機械的な仮評価Cから、本評価がBに変更となっている項目です。

次に、資料1の同じく2ページ目下段、資料2の1ページ目下段の、「ロ 大学院課程」を御覧ください。

B評価2人、C評価4人であり、評定案は仮評価と同じCとしております。法人の業務実績報告書によりますと、「ロ 大学院課程」に係る自己評価4項目のうち1項目について、「年度計画を十分に実施していない」とするⅡとしており、大学院の出願数が入学定員を下回る状況である点を課題としています。

次に、資料1の9ページ、資料2の14ページの、項目番号29「外部研究資金その他の自己収入の増加」を御覧ください。

B評価2人、C評価4人であり、評定案は仮評価と同じCとしております。法人の業務実績報告書によりますと、自己評価5項目のうち1項目について、「年度計画を十分に実施していない」とするⅡとしており、外部研究資金の獲得額について、平成29年度と比較して約47,000千円増加したものの、目標額の74%である点を課題としています。

最後に、次の10ページの項目番号30「経費の抑制」を御覧ください。

B評価2人、C評価4人であり、評定案は仮評価と同じCとしております。法人の業務実績報告書によりますと、自己評価4項目のうち1項目について、「年度計画を十分に実施していない」とするⅡとしており、統合システムの構築作業を実施したものの、受注者の開発遅延により、供用開

始が遅れる見込みとなったことを課題としています。委員からは、法人からの発注は計画通り行われた上で、受注者側の事情により遅延したのであれば、評価を一つ上げて良いのではないかと御意見をいただいております。

事務局からの説明は以上でございます。

(中島委員長)

ありがとうございます。

では、4点について順番にやっていきたいと思います。まず資料1の2ページの項目1、学士課程について、何か御意見がございましたらお願いします。

(橋本委員)

評価方法からしますと、5項目のうち1項目がⅡですと形式的にCとなってしまいますが、その他の4項目について、入試制度の検討等、全体的には効果的・効率的な入学者選抜ができたということで、私はBにいたしました。

(中島委員長)

Ⅱとされている留学生の項目については、目標が高すぎますので、この項目のみを重視せず、全体としてはBで良いのではないかと御意見が多いですが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

(中島委員長)

では、Bということにいたします。

続きまして、大学院課程については、評価案ではCのままですが、Bで良いのではないかと御意見が2人あります。私もBで良いのではないかと言っていますので、最初に発言しますけれども、大学院の定員割れというのは、宮城大学に限った話ではなく、公立大学ほぼ全般的にそうになっています。その理由の一つが、やはり地方の経済状態に起因している部分があって、大学院に行きたいけれども経済的に行けないということがある。必ずしも大学の責任とは言えないという部分があります。

あともう一人、Bは伊藤委員ですね。

(伊藤委員)

私も、前段の外国人の目標枠と同じような感覚でBにしました。宮城大学の大学院に入って将来どうするのか、ということがなかなか見えないところもあるということを含めると、大学としての努力は見えるということでBとしています。

(中島委員長)

Cの方がそのままということであれば、そのままになりますが、いかがでしょうか。

(伊勢委員)

私としましては、Bに上げててもよろしいのではないかと思います。先ほどの「イ 学士課程」も同様ですが、今後、次の中期計画で見直しとなる項目はあるのかと思いますが、その他の取り組み等はとても評価できると思います。

(川上理事長)

中島委員長のおっしゃった、他の大学においても起こっていることであるというのは全くその通りだと思うのですが、ただ、やはり宮城県が東北の中心として人材を育成するというのは重要な使命であって、それをどんどん高度化させなければいけないという観点からは、宮城大学として、大学院は維持していかなければいけないと思っています。ではどのように定員を埋めていくかという「工夫」というよりも、「工夫」に留まるのではなく、まさに、学生に対して大学院教育を受けると自分の人生にプラスになるということのアピールが十分できているのだろうか、我々がまだまだやるべきことがあるのではないかとという点では、大学院については、先ほどの留学生とは異なる課題を抱えていると思っています。その課題を、時間をかけながら解消していく。それこそ学生にとって、自分の人生としての価値を持つためには、教員の質が上がっていかなければいけない。そのためには、教員の研究力も高めていかなければいけない。設備をしっかり用意しなければいけない。相当な課題があるわけですが、これは懸命に努力していくべきだと思っています。大学の代表者である私としては、やはり大学院の改善についてはまだまだ道があると思って、謙虚に捉えていきたいと思っているところでございます。

(齋藤委員)

私は、留学生の問題と大学院の定員の問題は少し違うのではないかと考えています。

留学生については現実離れした目標ですが、それに対して、大学院の定員については、なかなか大変だろうけれども適切な範囲内である目標を設定しているわけです。それを目標にして頑張るとするのはやはり大事で、もしそれがうまくいかなかった場合には、それはもっと努力が必要という評価になるのは仕方ないのではないかと思います。そのように考えて、「イ 学士課程」はBで良いけれども、この項目はCのほうが良いのではないかと評価しました。

(伊藤委員)

社会人枠、特に地方自治体の派遣枠ということで富谷市からいらっしゃっているという御紹介がありましたが、市町村にどんどんアピールをして、定員確保にあたるという手法はどうなのでしょう。

(川上理事長)

そこは懸命に努力させていただきたいと思います。2年間ずつ、継続的にやっていただくことになりますから、5名より下の数には留まるのだろうとは思いますが、今は1名ですので、これを増やす努力をさせていただきます。

先日、副理事長が全自治体をまわって周知していますし、その中で考えてくださっているという自治体も複数ありますので、好循環にしていきたいと思っております。

(中島委員長)

先ほどの学長の決意表明を受けて、Cのままにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

(中島委員長)

ありがとうございます。

次に、資料1の9ページ「外部研究資金」ですが、Bが2人とCが4人です。

B評価は伊藤委員と吉沢委員ですね。

(伊藤委員)

外部研究資金については、大学全体としての戦略的な申請は必要ではないかと考えています。

(中島委員長)

外部資金の獲得は、ある意味その大学の体力の表れのようなところがあります。獲得は簡単なことではないのですが、各先生たちの研究能力の向上等、様々なことが効いてきて、最終的に外部資金獲得という、一つのバロメーターとして出てくると考えますと、やはりここは努力が必要な部分かとは思っています。

(川上理事長)

先ほどの伊藤委員の「大学として戦略的に」ということにつきまして、企業に繋いでみたり、地域創生のお金を何とか持ってこようということでは動いていますが、十分な成果が上がっていないというのが現状でございます。引き続き、教員に任せきりにするということではなくて、大学として大きな資金も持ってこられるように努力を続けたいと思っております。

(齋藤委員)

私は、先ほどの留学生と、大学院の定員の、間に来るのがこの項目ですので、迷いました。実際問題として、国の研究予算の総額の問題、その中でこういった研究領域への予算配分が行われているかという問題等、外部状況に依存するような面もあります。しかし、そういうものに対応させる形で、いかに大学の研究力をつけるかというのは、全ての大学に課された課題だと思います。自分たちの大学のことを考えても本当に大変なのですが、一緒に頑張りましょうという考えでCという気がします。

(中島委員長)

大学側ができることという、先生方の研究時間を増やす、あるいは書類を書いている時間を減らすということだと思います。海外ですと応募書類を書く専門の方がいることがあるのですが、日本は先生たちがみなやっている。そういった面のサポートを、すぐにできるかどうかは分からないのですが、考えていただければと思います。

(橋本委員)

震災後に外部資金が増えて、その延長線のような目標値だったのかなというのが、一番目標と乖離してしまった原因というふうに感じています。次期中期計画に向けては、ある程度、頑張りと比較するような目標値になるようにしていただければと思います。

(中島委員長)

では、Cのままということではよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

(中島委員長)

続きまして「経費の抑制に関する目標」ですが、先程事務局から説明がありましたけれども、大学は計画通りやっているのに、受託した業者が遅れている、ということですが、いかがでしょうか。

(橋本委員)

私はCにしたのですが、今回の場合は致し方ないということで、Bに変更させていただきたいと思います。

(中島委員長)

私もBにしたいと思います。ほかはいかがでしょう。よろしいですか。

(「異議なし」の声)

(中島委員長)

では、この項目はBに変更させていただきたいと思います。

4対2に分かれているのはこれで終わりですが、時間もありますので、1対5の項目について、1人の方に順番に説明をお願いするのが良いかと思うのですが、よろしいですか。

そうしますと、3ページの項目3のところではAが5人、Sが1人ということになっています。このSはどなたが。

(橋本委員)

私です。この委員会が、県民のかわりに内容を細かく見ているというところから考えますと、何か、教育研究の部分でどこか良いところを評価したいなという気持ちがございます。非常に努力さ

れている姿が読み取れましたので、外部にアピールする気持ちでSとつけさせていただきました。

(中島委員長)

ほかの方、いかがでしょうか。

(齋藤委員)

橋本委員がSをつけたのが、あと7番の「教育環境の整備」ですが、こちらについては私もSでいいかなという感じがします。

学士課程の教育内容については、「やや不安である」というコメントをしましたが、まだまだ前進させていかなければいけないところがあると思いますので、今の段階でSというのは、少し高すぎるような気がします。

ただ、教育環境の整備についてはかなり積極的に動きがあり、実績も積み重ねつつあるので、それをSと評価するというのはあり得るのではないかと思います。

(中島委員長)

今橋本委員がおっしゃった、取組みに対する体制を評価するということであれば、7番のほうで考えるのがいいかと思います。ということで、3番についてはこのままでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

(中島委員長)

続いて7番「教育環境の整備」ですが、私もSで良いかと思ったところですが、いかがでしょうか。

(伊勢委員)

環境の整備に関しては、私も評価をワンランク上げてよいのではと思います。

環境を整えたことについて、どのように、これは効果的だったという結果を得られるのかというのが分からないなという点があり、それが齋藤委員のおっしゃる可視化ということだと思うのですが、今後、それを示していただく必要はあるのではないかと思います。

(中島委員長)

ありがとうございました。

おっしゃるように、整備の効果はどうはかるのかというのは大変難しく、多くの大学で課題とされていることだと思うので、そこはぜひ今後考えていただくということで、Sとしたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

(中島委員長)

次が10番「就職支援」です。

(伊藤委員)

就職については100%ですので、Sと評価いたしました。

(齋藤委員)

私も、就職率の高さは非常に高く評価するのですが、就職率の高さは全国的に見られる状況で、100%の大学が数多くありますので、この点のみでSとはいかないのではないかと考えました。

(橋本委員)

これも評価の方法によることかと思いますが、目標を自ら決めて、それに対してどうだったか、という評価方法の中で、宮城大学は当初からずっと高止まりのようなところがあるかと思います。もちろん、これを維持していくのは大変なことですが、今までと比べて大きく実績が上がりました、となれば当然Sなのですが、評価の仕方として難しいところです。

(川上理事長)

昨年は、初めて就職率100%に達したということで、少し自己評価の中でも主張をさせていただきました。今年度も結果的に、5月までの間に就職率100%を維持することができたわけですが、その間他大学の就職状況も上がってきていますので、そういった意味からすると、今年はあまり強くは主張していないという状況でございます。

「就活の要らない大学」を本学は掲げてはいるのですが、当然、学生を支援して、就活をしっかりさせてということの結果でもございます。

(伊藤委員)

学生御本人が希望するところにいくら就職できているかということが本質的な意味での評価なのでしょうが、評定としては、就職率100%ということですので、やはりSしかないのではないかとというのが率直な考えです。

(中島委員長)

就職率と入試の倍率を見れば、大学の評価は概ね分かるのではないかと考えていて、学生や親がこの大学に行きたいと思ってくれているというのが入試倍率に出てきますし、企業がこの学校の学生はいいよと思ってくれるのが就職率ですから、大学の大事なバロメーターの一つなわけです。私もSに変更しようと思います。

(橋本委員)

先ほどAと申し上げたのですが、宮城大学の就職率の高さというのは一つのいいポイントなので、Sにさせていただきます。

(中島委員長)

それでは、Sに変更ということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

(中島委員長)

では、今の議論の確認をしておきますが、資料1の4ページ、項目7、教育環境の整備をAからSに引き上げました。

資料1の5ページ、項目番号10、就職支援をAからSに上げました。

それから、資料1の10ページ、項目30、経費の抑制の件ですけれども、CからBに上げました。

では、最後に川上理事長から一言お願いします。

(川上理事長)

私も就任後2年になりました。大学の外から来た人間としてまずできることというのは、環境整備をしていくことだというふうに思っ、コモンズや地域連携センターの改組、そして今度新しい建物を建てる等、一生懸命取り組んできたつもりでございますけれども、これが果たして、本当に教員や学生に浸透しているかということが次の問題でございます。先ほど御指摘がありましたとおり、つくったはいいけれどもそれで効果が上がっているのかということがこれからの課題でございます。誠に適切な御指摘をいただいているというふうに考えているところでございます。

また、大学院のところで申し上げたとおり、大学院の定員が埋まらないというのは、まだまだ我々として反省して取り組まなければいけないことであると思っております。特に、確かに地方自治体からの枠というのも、宮城県全体の行政レベルを上げていかなければいけないというつもりでつくっているところでございますけれども、我々自身のレベルが上がらないと学生に来ていただけないものだとも考えております。そういった意味で教員の能力の引き上げ、FD・SDだけではなく、大学院レベルになれば研究レベルを上げていく以外にないので、いかに研究レベルを上げていけるか。これを教員個人に任せきりではなくて、組織として研究レベルが上がるように、そのためには当然のことながら外部資金をとっていくということも関わってきますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

まさに今回の評価をいただいたことは、そのことを漏らさず御指摘をいただいているものと考えておきまして、大学全体一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

(中島委員長)

それでは、今後の御発展を期待するということで、司会に戻したいと思います。

(司会)

中島委員長，ありがとうございました。

なお，御審議いただきました業務実績に係る評価結果につきましては，大学法人に通知いたしますとともに，知事宛てに報告し，9月定例県議会へ報告いたします。

【4 その他】

（司会）

その他，皆様から何かございますでしょうか。よろしゅうございますか。

【5 閉会】

（司会）

それでは，以上をもちまして令和元年度第2回公立大学法人宮城大学評価委員会を閉会いたします。

(別紙)

公立大学法人宮城大学評価委員（令和元年度第2回）出席者名簿

【委員】

(五十音順・敬称略)

氏 名	職 名	出欠
伊勢 千佳子	仙台商工会議所女性会 ビジネス・交流委員会委員長 (株式会社イトオン取締役)	出席
伊藤 秀雄	有限会社伊豆沼農産 代表取締役	出席
〈副委員長〉 齋藤 誠	東北学院大学 学長特別補佐	出席
〈委員長〉 中島 秀之	公立大学法人札幌市立大学 理事長・学長	出席
橋本 潤子	公認会計士 (橋本潤子公認会計士事務所 代表)	出席
吉沢 豊予子	国立大学法人東北大学大学院医学系研究科 教授	欠席

【公立大学法人宮城大学】

氏 名	職 名
川上 伸昭	理事長・学長
正木 毅	副理事長（企画・広報担当）
川村 保	理事（教育・学術情報、国際交流担当）・副学長
風見 正三	理事（研究・産学地域連携担当）・副学長・事業構想学群長・事業構想学研究科長
武田 淳子	理事（学生支援担当）・副学長
西條 力	理事（総務・人事労務担当）
工藤 和浩	理事（財務・施設担当）
井上 誠	副学長（入試改革・高大連携担当）
原 玲子	看護学群長・研究科長
西川 正純	食産業学群長・研究科長
蒔苗 耕司	カリキュラムセンター長・情報システムセンター長
寺嶋 則雄	事務局長
川越 開	事務局次長兼総務課長
伊東 伸一郎	財務課長
佐藤 憲治	学務課長
菅原 正義	企画・入試課長
高橋 征史	太白事務室長
阿部 成雄	学術情報室長兼学務課副参事

【宮城県】

氏 名	職 名
江口 哲郎	総務部長
新妻 直樹	総務部参事兼私学・公益法人課長